

令和2年度第1回「横浜市地域公共交通会議」(書面開催)	
日 時	令和2年8月21日(金)
開 催 形 態	書面にて開催
議 題 内 容	(株)共同からの提案事項 ・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の回数券の販売について
報 告 内 容	新型コロナウイルスの影響による対応について ・小雀地区乗合バス「こすずめ号」の午後便の運休について ・旭中央「四季めぐり号」の運休について
委員への依頼内容	上記議題(小雀地区乗合バス「こすずめ号」の回数券の販売について)について、回答書にご意見の回答を依頼
委 員 か ら の ご 意 見	事 務 局 か ら の 回 答
<p><b>【回数券の発行について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回数券の発行には一定の効果が見込めると思う。利用者は乗車時に小銭を用意なくて済むし、事業者は運賃の先払いを受けることができるからだ。しかし、今回の提案が直ちに利用動機の創出につながるとは言えないだろう。なぜなら利用者が回数券を購入する一番の動機は、金銭的なインセンティブがあるからだ。多くの場合、10回分の料金で11枚の回数券が購入できる。このように回数券が「おトクに乗ることができる」というイメージで定着しているのに、この提案にはそれがない。やはり、回数券を発行するのであれば、何らかのおトク感が欲しい。</li> <li>・回数券は非常に良い試みであると思う。</li> <li>・議題について、例えば11枚つづり4,000円にするなど、割引を設定することで、購入意欲が向上し、利用促進に資すると考える。</li> <li>・利用促進上、10枚を11枚にしたらいかがでしょうか？現案でも良解と致します。</li> <li>・厳しい環境の下、本件合理化はよろしいと思います。それでも、町内会関係者の負担事務がいろいろ残ることになり、ご苦労様です。</li> </ul>	<p>今回の回数券の発行は、運賃支払いの簡素化による利用者の利便性向上や寄付の支払ツールを増やすことを主な目的としています。また、収支改善の取組を進めていることもあり、運賃の割引は見送りましたが、今後の利用状況等も踏まえて割引運賃についても引き続き検討して参ります。</p>

<p><b>【その他の収支改善策等について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の新型コロナウイルスの発生・感染拡大により利用者の外出機会が減少し、事業者にはますます厳しい状況になったと言えよう。このような状況で、回数券にインセンティブをつけるためには、運賃収入以外の収益を模索する必要がある。とは言え、このご時世で地域企業に寄付協賛を募るのは容易ではない。ならば、広く協賛者を募り資金援助を図る必要がある。例えば、地域の資源（農産物など）を活用したクラウドファンディングを実施し、一定額を支援した人には野菜の詰め合わせを送るといった方法である。また今回は大人料金の回数券ということであるが、小人料金の回数券は発行の予定はあるのか。検討の余地はあると思う。さらに販売場所について、バス車内に限定するのではなく、郵便局やコンビニ等で購入機会があっても良いのではないか。</li> </ul>	<p>寄付協賛については、まずは地域や地域に密着した法人等を対象にお願いしていく予定ですが、クラウドファンディングの活用等による対象者の拡大についても、今後の動向を見ながら、他のご提案と併せて検討して参ります。</p>
<p><b>【今後の地域交通施策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の外出機会が今までよりも減少しているとはいえ、日用品の買物や通院といった外出はなくなる。今後、移動手段について柔軟に考える必要があるだろう。</li> <li>・乗合輸送については長期化が予想されるコロナ禍においては、今後平常運行に戻るの是非常に厳しい状況であると思われる。一方で、高齢者の方は出控えにより、介護予防の点から言っても非常に心配だ。タクシー業界においても実施される予定であった「相乗り」も当然ながら当面見送られることとなった。タクシーの本来の特質であるドアツードアの個別輸送形態は、十分な車内感染対策が行われている前提であれば、今現在最も安全な公共交通機関だ。地域の足の確保と高齢者の介護予防の観点からも、コストの問題はあるが、デマンド型のタクシー輸送の検討が喫緊の課題であるのでは無いかと思う。</li> </ul> <p>※コロナ以降、タクシー全体の営業比率に占める無線配車回数は増加傾向にあります。</p>	<p>コロナ禍においては、これまでとは異なる発想や技術を含めて地域交通の確保を目指していくことが求められていると認識しています。今後も様々な移動手段を組み合わせながら、地域交通の確保を目指して参ります。</p>

以上